

# 文芸文化学科 総合型選抜 課 題 (小論文)

## 【注意事項】

- 1 開始後、小論文用紙の所定欄に受験番号と氏名を記入してください。
- 2 題名欄については、各自題名を自由につけて記入してください。
- 3 小論文用紙は、横書きで記述してください。
- 4 文字数は 720 字以上 800 字以内です。

以下は「自立」について書かれた文章です。あなたは社会における「自立」についてどのように考えますか。具体例を挙げ、自身の経験を踏まえながら、自由に論じてください。720字以上、800字以内。なお、解答用紙の題名欄には、各自が自由に考えた題名を書いてください。

### 敢えて「社会人」と呼ぶのなら

(中略)「ひとり立ちする」ことが「社会に出る」ことなのだろうか。いや、文字通りの意味で自立している大人など誰もいない。その仕事や生活が、どれほど多様な人々に依存していることか。

脳性麻痺の当事者である医師の熊谷晋一郎くまがやしんいちろうさんは、あるインタビューのなかで、「自立」の反対語が「依存」だというのは勘違いだと指摘している。たとえば熊谷さんが挙げているのは、東日本大震災のときに職場のエレベーターが止まり、自身が五階の研究室から逃げられなかったエピソードだ。健常者であれば、エレベーター以外にも階段やハシゴという別の依存先もあるから、下に降りられる。しかし、身体の自由が利かない熊谷さんには、そのときエレベーターしか依存先がなかった。

熊谷さんによれば、「依存先が限られてしまっている」ということこそ、障害の本質にほかならない。逆に言うなら、「実は膨大なものに依存しているのに、「私は何にも依存していない」と感じられる状態こそが、“自立”といわれる状態”だということである。

*健常者は何にも頼らずに自立していて、障害者はいろいろなものに頼らないと生きていけない人だと勘違いされている。けれども真実は逆で、健常者はさまざまなものに依存できていて、障害者は限られたものにしか依存できていない。依存先を増やして、一つひとつへの依存度を浅くすると、何にも依存してないかのように錯覚できます。“健常者である”というのはまさにそういうことなのです。*

誰でも、否が応でも、すでに社会に出ている。にもかかわらず、敢えて「社会に出る」と言うのであれば、それは社会の多様な場所、多様な側面にかかわるようになることを指す—そう私は理解したい。ひとつの場所の方法や慣習にただ順応するのではなく、むしろそれを相対的に見て、別の可能性を想像できる場に立つことを意味する、と考えたい。

繰り返すように、社会は一枚岩ではない。「社会は厳しい」のではなく、社会は特定の人々に厳しい。敢えて「社会人」という、ある者を別の者と区別する言葉を用いるのであれば、社会の偏った厳しさを和らげようと努め、相互依存の網の目からこぼれ落ちる人々に手を伸ばす者を、「社会人」と私は呼びたい。

(古田徹也著『いつもの言葉を哲学する』朝日新聞出版)